

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
傘とてるてるぼうず、雨	小	学級活動 5年 (図画工作)	柴田響子

<ねらい>

- ・クレヨンと水彩絵の具を使って描くことや、“はじき絵”を楽しむ。
- ・はさみを使って1回切りをする。
- ・教師とやりとりしながら、傘やてるてるぼうずをイメージして作る。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

I、傘・てるてるぼうず

- ①紙皿の裏面にクレヨンで模様を描く。クレヨンの色が濃く出るように、「ぐりぐり…」等と言いながら、濃く塗りつぶすように模様を描く見本を見せる。
- ②模様を描いた紙皿に水彩絵の具で全体に色を塗る。クレヨンの上に塗っても、絵の具をはじいてクレヨンの模様が見えることを伝えながら見本を見せる。
 - ・紙皿が乾いた後、教師の方で紙皿の4分の1をはさみで切り取り、傘のパーツとてるてるぼうずのパーツに分ける。傘のパーツは傘の形に成形し、モールを通しやすいように傘の先端に鉛筆などで穴をあけておく。
- ③傘の中心にモールを通し、先をねじる。教師の方で、モールが抜け落ちないように内側をテープ等で固定しておく。
- ④丸い画用紙にてるてるぼうずの顔（目、口）をペンで描き、紙皿を切ったパーツにのりで貼りつける。吊るすためのモールを教師が裏面にテープで貼っておく。
- ⑤完成した自分の傘とてるてるぼうずを紐に吊るす。

II、雨（背景）

- ・傘とてるてるぼうずの紙皿を乾かす間や、残った活動時間を使って作成した。
- ①細い短冊状の折り紙（青系）を、はさみで細かく切る。
- ②細かく切った折り紙を、のりで模造紙に貼る。みんなで模造紙を囲んで貼る。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・紙皿の中心だけでなく、端に描くほうが完成した時に模様がよく見えるので、教師から声かけをして端の方にもしっかり描けるようにすると良い。ふちの波状の部分に描くときに、手にガタガタ振動が伝わることを楽しんでいる児童もいた。
- ・白のクレヨンを使うと描いている時は見えないが、絵の具を塗った時に模様が浮き出るので、楽しめる児童には白のクレヨンも勧めると面白い。
- ・児童の実態によっては、傘のイラストを見ながら取り組むことで、モールを持ち手に見立てて作ることができた。
- ・完成した作品を自分で吊るして飾ることで、楽しく活動を終えることができた。
- ・児童の実態に合わせて、“カスタネットはさみ”を使用した。
- ・個人の作業だけでなく、雨を模造紙に貼る活動では、みんなで一緒につくることを楽しめた。



<その他（材料、費用、購入先等）>

紙皿、クレヨン、水彩絵の具、モール、折り紙（青系）、模造紙